

2020年12月22日
住友生命保険相互会社

<第31回> 2020年の世相を反映した「創作四字熟語」50編

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博）は、2020年の世相を的確に表現した「創作四字熟語」を広く一般から募集しました。

以下は、募集概要、応募者および作品傾向についての集計・分析結果です。入選作品等の詳細につきましては、別紙をご参照ください。

1. 募集概要

- a. 企画概要 1年の出来事を漢字四文字で振り返るとい、いわば「ことばの遊び」を提唱したところ、多くの人々の共感を呼び、“その年に感じたことを漢字に託す”という全く新しい概念が誕生しました。
- b. 募集期間 2020年9月10日～10月25日 ※郵送での応募は10月16日必着
- c. 有効作品数 22,377作品
- d. 募集方法 ハガキ、当社規定の応募用紙、インターネットによる応募。記入事項は未発表の作品およびその読み方、元のことばと簡単な説明。
- e. 審査員 俵 万智氏（歌人）

2. 応募者の内訳（複数回答） 上段＝作品数、下段＝構成比（%）

全体	男性	女性	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	不明
22,377	19,301	3,076	343	724	1,271	11,515	3,566	4,932	26
100.0	86.3	13.8	1.5	3.2	5.7	51.5	15.9	22.0	0.1

3. 作品傾向（ジャンル別）

応募ジャンル	作品数	%	主な内容
政治・経済	4,180	18.7	菅首相誕生、特別定額給付金、Go To キャンペーンなど
社会	11,777	52.6	新型コロナウイルス感染症、新しい生活様式、在宅勤務など
国際情勢	2,336	10.4	ロックダウン、大規模森林火災、香港国家安全維持法など
文化・スポーツ	2,260	10.1	東京五輪開催延期、藤井棋士二冠達成など
流行・芸能	1,824	8.2	「あつ森」「鬼滅の刃」大ヒット、妖怪アマビエなど

2020年の世相を反映した「創作四字熟語」入選作品 50 編

◆審査員コメント◆

俵 万智（歌人）

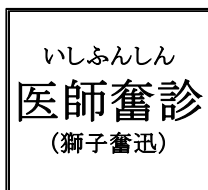
「創作四字熟語」が、一年を振り返る言葉の風物詩として、定着してきたなあと感じます。今年は、予想通りコロナ関連の言葉が多かったわけですが、機知とユーモアで生み出された数々の「名作四字熟語」を見てみると、とても元気づけられました。

誰もが願う「**収束渴望**」。心からの敬意と感謝を込めての「**医師奮診**」。「医」の語には全ての医療従事者が含まれていると思います。アマビエの「**妖姿願霊**」にもあやかりたい。今は、お手上げ状態の「**全面口覆**」ですが、降伏ではなく勝利のマスクとしたいもの。「**出発振興**」や「**薬家争鳴**」の効果にも期待です。

明るいニュースや国際ニュースにも力作がありました。「**王棋聖聡**」は、藤井聡太さんの活躍が一目瞭然、「**自由香望**」は「香」をホンと読ませたところが工夫です。「**父継三冠**」はサンカンの同音異義の妙味にうなりました。「**頻出鬼滅**」は、元の四字熟語との響き合いが、意味の上からも音の上からも、見事です。

◆最優秀作品 1 編◆

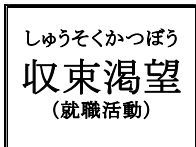
(敬称略・順不同)



新型コロナウイルスが広がる中、医師をはじめ医療従事者の方々が奮闘してくれている。

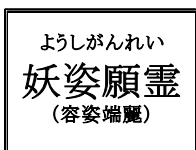
福岡県・茶山 裕司 (49 歳)

◆優秀作品 9 編◆



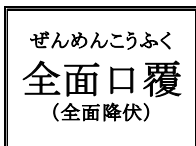
新型コロナが早く収束することを渴望している。

千葉県・田牧 敏男 (74 歳)



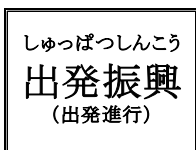
妖怪アマビエに疫病退散を願う。

香川県・久保 礼子 (57 歳)



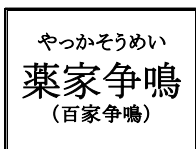
感染対策で誰もがマスクをするようになった。

大阪府・松原 敬二 (50 歳) 愛知県・波多野 賢太郎 (45 歳)



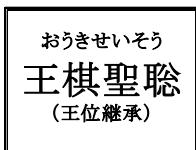
コロナ禍における景気活性化策、「Go Toトラベル」事業。

兵庫県・金子 直矢 (38 歳) 東京都・小杉 賢一 (63 歳)



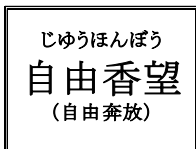
世界の製薬会社や研究所がワクチン開発にしのぎを削っている。

京都府・芦田 為美 (84 歳)



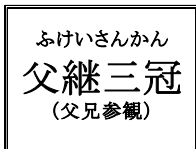
藤井聡太棋士が史上最年少で「棋聖」と「王位」の二冠を獲得。

茨城県・後藤 貴弘 (42 歳)



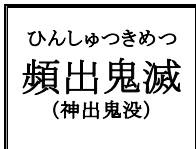
活動や思想の自由を求め、香港の混乱は続く。

神奈川県・木本 英男 (59 歳)



コントレイル号、父の偉業を継ぎ15年ぶり史上3頭目の無敗の三冠馬に。

兵庫県・川崎 正春 (69 歳)



「鬼滅の刃」が大ヒット。あちらこちらでグッズやニュースを見かける。

愛知県・谷口 由美子 (48 歳) 大阪府・森田 和城 (52 歳)
大阪府・大月 昭人 (35 歳)

◆入選作品40編◆

(敬称略・順不同)

	創作四字熟語	意味・作者 (敬称略・順不同)	元のことば
政治	給十各家 きゅうてんかつか	政府が特別定額給付金10万円を全国民に一律給付。 神奈川県・木本 英男 (59歳)	急転直下
	記録更晋 きろくこうしん	安倍晋三前首相、連続在職日数最長記録を更新。 大阪府・渡邊 守昭 (50歳)	記録更新
	菅新相誕 すがしんしょうたん	菅義偉氏が自民党総裁に決定、新しい首相の誕生。 茨城県・後藤 貴弘 (42歳)	臥薪嘗胆
	吉松阪決 きつしょうはんけつ	吉村知事、松井市長が目指す大阪都構想に対する住民の判断。 大阪府・及川 雅也 (51歳)	起承転結
	押印の乱 おうえんのらん	河野行革担当大臣が行政手続きの押印の原則廃止を求めた。 大阪府・渡辺 廣之 (67歳)	応仁の乱
	命輝燦然 めいきさんぜん	大阪万博のロゴマークが決まり「いのちの輝きくん」と呼ばれ親しまれている。 東京都・山崎 柚佳 (14歳)	光輝燦然
	自号自得 じごうじとく	マイナンバーカードを用いたポイント還元策、マイナポイント事業始まる。 香川県・久保 礼子 (57歳)	自業自得
	常時携袋 じょうじけいたい	レジ袋有料化により、常にエコバッグを持ち歩く人が増えた。 東京都・山本 桂子 (57歳) 秋田県・佐藤 和広 (62歳)	常時携帯
社会	感染掌握 かんせんしょうあく	接触確認アプリや各自治体の感染状況をスマホで毎日確認。 大分県・坂本 洋一 (59歳) 兵庫県・今西 真琴 (65歳) 愛知県・古川 明夫 (72歳)	勸善懲悪
	一席二長 いっせきにちよう	新型コロナ対策で、席と席の間はできるだけ2m空ける。 大阪府・梶谷 雅子 (68歳) 新潟県・矢沢 孝義 (65歳) 神奈川県・平井 孝典 (45歳) 東京都・塩澤 フミノ (49歳)	一石二鳥
	多止祭催 たしさいさい	新型コロナの影響で、沢山の祭りや催し物が中止になった。 福岡県・大橋 雅美 (51歳)	多士済済
	医心献身 いしんけんしん	患者を救うため奮闘する医療従事者の姿。 東京都・原 美智子 (52歳)	以心伝心
	帰省改革 きせいかいかく	オンライン帰省ですませる人もいた。 愛知県・石黒 峻登 (29歳) 大阪府・渡辺 廣之 (67歳)	規制改革
児宅待機 じたくたいき	感染拡大予防のため全国の小中高校で一斉臨時休校。 神奈川県・木本 英男 (59歳)	自宅待機	

	創作四字熟語	意味・作者 (敬称略・順不同)	元のことば
社 会	注目知事 ちゅうもくちじ	新型コロナ対応で、各都道府県知事が全国的に注目された。 愛媛県・森内 国宏 (49歳)	注目記事
	巣居工夫 そういくふう	新型コロナを乗り越えるために巣ごもり生活の工夫がなされた。 神奈川県・山口 則彦 (54歳)	創意工夫
	除菌高価 じょきんこうか	新型コロナの影響で除菌剤が高騰した。 千葉県・田牧 敏男 (74歳)	除菌効果
	周囲換気 しゅういかんき	密閉を防ぐためにいろんな所を開ける。 神奈川県・鈴木 正実 (63歳) 山梨県・内藤 悠 (29歳)	注意喚起
	持帰商創 じきしょうそう	外食の機会が減る中、持ち帰りで売上げを伸ばす飲食店も。 東京都・山本 桂子 (57歳) 秋田県・佐藤 和広 (62歳) 広島県・中田 基晴 (55歳)	時期尚早
	検温無事 けんおんぶじ	何をするにも検温、37.5度以下でほっと安心の毎日。 広島県・中田 基晴 (55歳)	平穏無事
	創意口布 そういくふ	様々なマスクを自作する人も増えた。 東京都・小杉 賢一 (63歳) 大阪府・糀谷 雅子 (68歳)	創意工夫
	画伝飲酔 がでんいんすい	パソコンと向き合って飲むオンライン飲み会が流行。 神奈川県・木本 英男 (59歳)	我田引水
	散勤交代 さんきんこうたい	リモート勤務が多くなり、会社の出勤が分散された。 千葉県・大川 咲 (32歳)	参勤交代
国 際 情 勢	閉園木馬 へいえんもくば	「としまえん」が閉園した。 愛知県・古川 明夫 (72歳)	回転木馬
	森惨憂国 しんざんゆうこく	オーストラリア、ブラジル、アメリカでの大規模な森林火災が深刻な事態を招いた。 神奈川県・木本 英男 (59歳)	深山幽谷
	一目猫然 いちもくびょうぜん	新たな「ナスカの地上絵」発見。これはもうネコにしか見えません。 神奈川県・木本 英男 (59歳)	一目瞭然
	都市封禍 としふうか	新型コロナウイルスの拡大で世界の多くの都市がロックダウンした。 茨城県・後藤 貴弘 (42歳)	都市封鎖
	共菌共世 きょうきんきょうせい	世界中がウイルスと共存する生き方を模索し始めた。 茨城県・後藤 貴弘 (42歳)	共存共栄

	創作四字熟語	意味・作者 (敬称略・順不同)	元のことば
文 化 ・ ス ポ ー ツ	千産地層 ちさんちそう	千葉時代を意味する「チバニアン」という地質時代が命名された。 秋田県・佐藤 和広 (62歳) 神奈川県・柴谷 佳寿美 (44歳) 東京都・斎藤 絹恵 (51歳)	地産地消
	泳再競行 えいさいきょういく	競泳の池江璃花子選手が、病を乗り越え再び実戦に行くまで回復された。 千葉県・和田 秀樹 (55歳)	英才教育
	頂点尻地 ちやうてんしりつち	過去1度だけの幕尻優勝が今年は徳勝龍関、照ノ富士関の優勝で2度も。 千葉県・秋元 孝生 (71歳)	頂天立地
	一年待東 いちねんまっとう	2020年、東京五輪の一年延期が決まった。 愛知県・後藤 章峰 (43歳) 茨城県・後藤 貴弘 (42歳)	七転八倒
	五十三次 ごじゅうさんつき	53歳でJ1最年長出場記録。キングカズが見据えるのは次のシーズン。 東京都 野本 とし夫 (69歳)	五十三次
流 行 ・ 芸	日韓友虹 にっかんゆうこう	日韓合同オーディション・プロジェクトから誕生した「NiziU」が大ブレイク。 東京都・山本 桂子 (57歳) 茨城県・後藤 貴弘 (42歳)	日韓友好
	凄森消費 すごもりしょうひ	巣ごもり消費でゲームソフトの「あつまれ どうぶつの森」が良く売れた。 千葉県・田牧 敏男 (74歳) 千葉県・吉野 誠 (69歳)	巣ごもり消費
	最興鬼録 さいこうきろく	映画「鬼滅の刃」の公開3日目の興行収入と観客動員数が過去最高。 愛知県・後藤 章峰 (43歳)	最高記録
能	哀殿之意 あいどののい	「バカ殿様」で人気の志村けんさん、新型コロナウイルス感染症で亡くなる。 香川県・久保 礼子 (57歳)	哀悼の意
	一人静火 ひとりしずか	ひとりキャンプが大人気。 東京都・野本 とし夫 (69歳)	一人静
	千倍繁盛 せんばいはんじょう	半沢直樹が再登場し高視聴率を記録。決めゼリフが「倍返し」から「千倍返し」に。 神奈川県・内河 裕信 (61歳)	商売繁盛
	フワ台頭 ふわたいとう	ハイテンションな個性派芸人フワちゃんがブレイクし、多くのテレビ番組に出演。 大阪府・渡辺 廣之 (67歳) 愛知県・後藤 章峰 (43歳)	付和雷同

◆今年の傾向◆

五輪イヤーが一転、コロナ禍に。品薄マスク高額転売が社会問題化

応募作品のジャンルで「社会」が過半数を占めましたが、その多くが新型コロナウイルス感染症関連の作品でした。待望のオリンピックイヤーとなるはずだった2020年。ウイルス拡大で様相が一変しました。「**一年待東**

」によるワクチンの開発・供給を願わずにはいられません。

新型コロナウイルスは、年明け早々から海を越えて忍び寄り、世界各国が「**都市封鎖**」のロックダウンに陥りました。国内でも3月、小中高校の臨時休校が始まり、家庭での「**見宅待機**」を余儀なくされ、さらに不要不急の外出を控えるように要請されるなど、世の中に不安と混乱が広がりました。

人との接触時には、マスク着用の「**全面口覆**」で飛沫防止に努める人が急増したことで、マスクは瞬く間に店頭から消えて品薄状態に。対応策として自分で「**創意口布**」する人も増え、いまやファッションの一部として楽しむ人も。マスクと同様に、手洗いなどの推奨で消毒液も「**除菌高価**」となり、インターネットでの高額転売が社会問題化しました。

緊急事態宣言でテレワークが加速、新しい生活様式、ニューノーマル時代到来

4月7日からは7都府県に、4月16日からは全国に「緊急事態宣言」が発せられました。人と人との接触機会を、企業には出勤者を減らすことが求められ「**散勤交代**」のテレワークが一気に加速しました。デジタル化の波に乗って「**押印の乱**」も勃発。行政手続きで印鑑使用の原則廃止が要請されました。

緊急事態宣言の延長と共に、今後の国民生活の指針として「新しい生活様式」が提言され、「**共菌共世**」するニューノーマル時代への対応が求められました。「**一席二長**」を保って「3密」を回避し、手洗い、うがい、「**周囲換気**」の徹底、毎朝の「**検温無事**」の確認など、さまざまな対策が推奨されました。また、陽性者との濃厚接触の可能性を通知する接触確認アプリによる「**感染掌握**」のさらなる普及も期待されます。

特別定額給付金、マイナポイント、Go To キャンペーンで景気回復も歓迎と不安

商業施設やレジャー施設などの臨時休業は、経済に大きな打撃となりました。緊急経済対策として、「**給十各家**」の特別定額給付金や、中小事業者には、営業時間短縮に係る感染拡大防止協力金などが支給され、マイナンバーカード所有者を対象にした「**自号自得**」なポイント還元事業もスタートし、生活維持そして消費拡大の一助となりました。

青森ねぶた祭、京都・祇園祭の山鉦巡行などの祭事や、花火大会などのイベントも各地で「**多止祭催**」となるなど、地域経済も大きな影響を受けました。「Go To トラベル」事業も「**出発振興**」しましたが、歓迎の声と不安の声が交錯しています。

巣ごもり消費が拡大、リモート飲み会やオンライン帰省が普及、「あつ森」大ヒット

外出自粛が続く中で、「**巣居工夫**」による新たな消費行動も生まれました。仕事終わりの一杯に代わって“リモート飲み会”が普及し、「**画伝飲酔**」という新たなコミュニケーションが誕生しました。お盆休みも、オンラインで家族との交流を楽しむ「**帰省改革**」で様変わりしました。

飲食店では、「**持帰商創**」と宅配やテイクアウトに力をいれるお店が急増。また、レジ袋の有料化で、エコバッグを「**常時携袋**」しての買い物も日常化しました。

おうち時間が増えたことで、無人島で動物たちと暮らすゲームソフトが大ヒット。ほのぼのとした「**凄森消費**」が世界規模で拡大しました。

特別措置法施行、新首相と都道府県知事の手腕に注目

コロナ禍で指揮を振るった安倍晋三前首相は、在職日数歴代最長の「**記録更晋**」となりましたが、体調悪化のため退陣されました。バトンを引き継いだ菅義偉氏が、第99代首相に選出され「**菅新相誕**」しました。

特別措置法の施行で、都道府県知事による外出自粛や休校措置の要請が可能となり、感染拡大防止への「全国知事会宣言」を公表するなど「**注目知事**」となりました。

注目と言えば、大阪では、吉村洋文府知事と松井一郎大阪市長が推進する「大阪都構想」の賛否を問う住民投票が実施され、僅差で否決という「**吉松阪決**」が下されました。また、2025年に開催される大阪・関西万博のロゴマークが発表され、ビジョンである「いのち輝く未来社会」を表現した「**命輝燦然**」の“キモカワイイ”デザインも話題を呼びました。

大規模森林火災が、香港ではデモが発生。地質年代「チバニアン」と命名

世界に目を向けると、大規模な被害を与えたのは新型コロナウイルスではありません。大規模森林火災が米西海岸や南米アマゾンなどで発生。なかでもオーストラリアでは数万匹のコアラが被害を受けるなど「**森惨憂国**」でした。

一方、こちらは巨大な猫が話題に。世界遺産「ナスカの地上絵」近くの丘で、「**一目猫然**」の地上絵が発見されたとの報告がありました。

香港では、中国で統制強化を目的とした「香港国家安全維持法」が成立、施行されたことで、「**自由奢望**」を求めるデモが発生するなど歴史的な局面を迎えました。

また、国際地質科学連合が、約77万～約12万年前の地質年代を「チバニアン」と命名することを正式決定。「**千産地層**」が世界に認められました。

藤井棋士「二冠」、競馬は「三冠」、競泳・池江選手が復帰

将棋界では、藤井聡太七段が棋聖戦に続き王位戦も制し、史上最年少で「**王棋聖聡**」の二冠を達成、八段に昇段しました。その勢いは止まりません。

競馬界では、若馬コントレイルが無敗三冠馬に。父のディーピンパクトと共に「**父継三冠**」に輝きました。新星誕生の一方で、世界最古級のメリーゴーランドがシンボルの遊園地「としまえん」が「**閉園木馬**」となり、94年の歴史に幕を下ろしました。

スポーツ界では、五輪を筆頭に全国高校野球選手権などの大会中止や無観客開催など、アスリート達には厳しい一年となりましたが、そんな中でも、明るい話題もありました。競泳女子の池江璃花子選手が、1年7カ月ぶりとなる「**泳再競行**」で白血病からの復帰を果たしました。今後の活躍を期待します。

サッカー界では、キングカズこと三浦知良選手が53歳6カ月28日のJ1最年長出場記録を打ち立てました。「**五十三次**」の挑戦は、まだまだ続きそうです。

角界では、1月の初場所で平幕の徳勝龍関が、7月場所では元大関で平幕の照ノ富士関が優勝を果たし、幕尻優勝2人という「**頂点尻地**」の下剋上に。下剋上といえば、出向先から親会社に戦いを挑んだテレビドラマ「半沢直樹」が、“千倍返し”の決め台詞と勧善懲悪の痛快さで、高視聴率の「**千倍繁盛**」で世間を賑わせました。

鬼滅の刃、ソロキャンプブーム。NiziU、フワちゃん人気。殿に哀悼

大人気漫画「鬼滅の刃」のアニメ映画が公開され、10日間の興行収入が史上最速100億円突破の「**最興鬼録**」で空前の大ヒットに。コラボ企画や関連商品も「**頻出鬼滅**」のヒットを連発。今やコロナ禍で疲弊した日本経済の救世主となりました。

ソーシャルディスタンス推奨の影響もあり、「**一人静火**」がブームに。ソロキャンパーとして人気が再燃したお笑い芸人のキャンプ本が、8月の週間ベストセラーで趣味実用書1位を獲得しました。熊本ゆかりの妖怪「アマビエ」も、ツイッターをきっかけに全国に拡散され話題に。疫病退散の「**妖姿願書**」を含めた関連商品を多数目にしました。

芸能界では、新たなアイドルが登場しました。日韓合同オーディションで選出、結成されたグループ「NiziU」のプレデビュー曲の累積再生数が1億回突破という社会現象に。「**日韓友虹**」の架け橋として今後の活躍を期待します。また、ハイテンションで人気のユーチューバー芸人が「**フワ台頭**」し、意気消沈した日本に元気を振り撒いています。

一方、笑いの一時代を築いた志村けんさんが逝去され、ウイルスの恐ろしさを世の中に広く知らしめました。「**哀殿之意**」を含めて、謹んでご冥福をお祈りいたします。

見えないものと闘った一年でした。感染拡大防止か、経済優先か、人類に厳しい選択が迫られる中、「**医心献身**」し、日夜「**医師奮診**」で闘っている医療従事者の方々に感謝と敬意を表します。望むことはただ一つ、新型コロナウイルスの「**収束渴望**」です。来年こそ良い一年であることを願います。

月	主な出来事	作品例
1	<ul style="list-style-type: none"> ●オーストラリアで大規模森林火災による甚大被害 ●約 77 万～約 12 万年前の地質年代を「チバニアン」と命名 	森惨憂国(しんざんゆうこく) 千産地層(ちさんちそう)
2	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナ感染拡大でマスクが品薄に。ネットでの高額転売が社会問題化 ●WHO、新型コロナウィルスの危険性評価を引き上げ。「世界的流行」と認定 	全面口覆(ぜんめんこうふく) 創意口布(そういくふ) 共菌共世(きょうきんきょうせい)
3	<ul style="list-style-type: none"> ●全国の小中高校で一斉臨時休校開始 ●疫病を祓う妖怪「アマビエ」が話題。関連ツイートが 10 日間で 200 倍超 ●イタリア全土で移動制限。トランプ米大統領が国家非常事態を宣言 ●政府が「新型コロナウイルス感染症対策推進室」を設置。地方と連携へ ●東京五輪、1年程度の延期が決定。日本とIOCなどが合意 ●お笑いタレントの志村けんさんが新型コロナによる肺炎で死去 	児宅待機(じたくたいき) 妖姿願霊(ようしがんれい) 都市封禍(としふうか) 収束渴望(しゅうそくかつぼう) 一年待東(いちねんまっとう) 哀殿之意(あいどののい)
4	<ul style="list-style-type: none"> ●全国知事会が「全国知事会宣言」公表。不要不急の外出自粛を呼び掛け ●緊急事態宣言の対象地域を7都府県から全都道府県に拡大、人の接触機会の7～8割削減を目指す ●青森ねぶた祭など、各地で祭事の中止が決定 ●ゲームソフト「あつまれ どうぶつの森」販売本数が米国で首位に ●ビール会社が大规模オンライン飲み会イベント開催。約700人が参加 ●国民1人10万円を配布する「特別定額給付金」がスタート 	注目知事(ちゅうもくちじ) 巢居工夫(そういくふう) 散勤交代(さんきんこうたい) 多止祭催(たしさいさい) 凄森消費(すごもりしょうひ) 画伝飲酔(がでんいんすい) 給十各家(きゅうてんかつか)
5	<ul style="list-style-type: none"> ●政府の専門家会議が、国民生活の指針「新しい生活様式」を提言。実践例に「3密」回避、こまめな換気、毎朝の体温測定など ●「国民生活安定緊急措置法」改正。品薄の消毒液の高額転売禁止に ●飛行チーム「ブルーインパルス」が都心上空を編隊飛行。医療従事者に敬意と感謝 	一席二長(いっせきにちょう) 周囲換気(しゅういかんき) 検温無事(けんおんぶじ) 除菌高価(じょきんこうか) 医師奮診(いしふんしん) 医心献身(いしんけんしん)
6	<ul style="list-style-type: none"> ●感染者との濃厚接触を通知する接触確認アプリ「COCOA」運用開始 ●中国政府が「香港国家安全維持法」可決。「一国二制度」が形骸化 	感染掌握(かんせんしょうあく) 自由香望(じゆうほんぼう)
7	<ul style="list-style-type: none"> ●レジ袋の有料化スタート。エコバック持参で対応 ●5月に飲食店からテイクアウトをした人が58.1%に。調査機関が発表 ●観光支援事業「Go Toトラベル」開始 	常時携袋(じょうじけいたい) 持帰商創(じきしょうそう) 出発振興(しゅつぱつしんこう)

月	主な出来事	作品例
8	<ul style="list-style-type: none"> ●元大関で平幕の照ノ富士関が幕尻優勝の快挙。大相撲7月場所 ●感染症対策分科会がお盆休みの帰省自粛を提言 ●芸人ヒロシ著の「ヒロシのソロキャンプ」に予約殺到。発売前に重版決定 ●将棋の藤井聡太棋聖が最年少18歳1カ月で二冠達成 ●安倍晋三首相が連続在職日数2799日に。歴代単独1位を達成 ●大阪・関西万博のロゴマーク発表。「いのちの輝き」を表現 ●競泳の池江璃花子選手が1年7カ月ぶりにレース復帰 ●遊園地「としまえん」が閉園。94年の歴史に幕 	<p>頂点尻地(ちょうてんしりっち)</p> <p>帰省改革(きせいかわいかく)</p> <p>一人静火(ひとりしずか)</p> <p>王棋聖聡(おうきせいそう)</p> <p>記録更晋(きろくこうしん)</p> <p>命輝燦然(めいきさんぜん)</p> <p>泳再競行(えいさいきょういく)</p> <p>閉園木馬(へいえんもくば)</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ●「マイナポイント」事業開始。マイナンバーカード所有者にポイント還元 ●菅義偉氏を首相指名選挙で第99代首相に選出、菅内閣が発足 ●「2020年上半期インスタ流行語大賞」芸能人部門で芸人「フワちゃん」が1位 ●サッカー・横浜FCの三浦知良選手がJ1最年長出場。53歳6カ月 ●河野太郎行政改革担当相が行政手続きで印鑑使用原則廃止を全府省に要請 ●ドラマ「半沢直樹」最終回の平均視聴率が32%超の高視聴率 	<p>自号自得(じごうじとく)</p> <p>菅新相誕(すがしんしょうたん)</p> <p>フワ台頭(ふわたいとう)</p> <p>五十三次(ごじゅうさんつぎ)</p> <p>押印の乱(おうえんのらん)</p> <p>千倍繁盛(せんばいはんじょう)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ●世界遺産「ナスカの地上絵」近辺で、ネコ科動物の地上絵発見と発表 ●競馬の菊花賞でコントレイル号が無敗3冠馬に。父子で3冠馬は史上初 ●映画「『鬼滅の刃』無限列車編」の興行収入が史上最速で100億円突破 ●既刊全22巻が「週間コミックランキング」で1位～22位を独占 	<p>一目猫然(いちもくびょうぜん)</p> <p>父継三冠(ふけいさんかん)</p> <p>最興鬼録(さいこうきろく)</p> <p>頻出鬼滅(ひんしゅつきめつ)</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪市の廃止を問う「大阪都構想」の住民投票を実施。僅差で否決 ●製薬会社がコロナワクチンの中間解析結果で90%超の予防効果と発表 ●NiziU「Make you happy」が史上最短ストリーミング1億回再生突破 	<p>吉松阪決(きつしょうはんけつ)</p> <p>薬家争鳴(やつかそうめい)</p> <p>日韓友虹(にっかんゆうこう)</p>